

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【人文科学研究科 歴史学専攻 (日本史学コース) 修士課程】
試験科目 【 専門試験 歴史学一般 】

【出題意図】

日本史学分野における知識や技能を修得し、修士課程での学修に必要な学力を有しているか。また、提示された諸情報・条件に基づき考察を行い、論理的な文章を書く力を有しているかを問う。

【問】 (1)～(5)のうち3つを選び、その番号を下の()に記し、それぞれについて簡潔に述べよ。

(1) 筑紫君磐井 (2) 大官大寺 (3) 五衛府 (4) 百万町歩開墾計画 (5) 三筆

【評価のポイント】

各歴史的事項に関する概要や特徴について、単なる個別説明に終始することなく、その背景や歴史的経緯等を踏まえながら書けていること。

8世紀における土地・人民支配について、具体的・多面的に述べよ。

【評価のポイント】

8世紀という時代設定を意識し、律令制に基づく「公地公民制」の理想と運用の実態、変質(限界)について説明できているか。また、それらに関する各種制度の静的説明に終始するのではなく、歴史的経緯や時代背景を踏まえた因果関係の中で理解し、土地・人民支配の問題構造を論じる答案になっているか。

日本中世社会における「顕密仏教」や「顕密寺院」の果たした役割について記述しなさい。

【評価点】

顕密仏教の主要な宗派・門流・寺院などについて説明したうえで、日本中世の国家と宗教の関係について正確な認識を持ち合わせた回答ができているのかが基本である。また、いわゆる権門として荘園・知行国などの管理支配機構をととのえるにいたった経済的側面について論じることもできよう。さらに鎌倉新仏教との関係に鑑みて、中世的仏教を代表するものとは何かを論じることもできる。

2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

【問】近世という時代は、近世前期と近世中後期に分けて捉えられるが、その画期はいつか、理由とともに自己の考えを述べよ。また、近世前期から中後期へと、どう社会が変容するのか。具体的に事例をあげて述べよ。

【評価のポイント】 画期となる時期を定め、その理由を論理的に述べる必要がある。その際、時期の示し方は、和暦で〇〇期とするか、あるいは政治体制や事件、社会・経済構造などで区切ることが求められる。画期とした理由・根拠は、具体的に政治・経済・社会の動きを取り上げ、どのように変容した内容を述べること。自分なりに近世という社会を捉え、全体を見通せることが求められる。

幕末から明治期の経済問題もしくは財政問題について、自分でテーマを設定して論じなさい。

【評価のポイント】

幕末から明治期は近世（封建制社会）から近代（資本主義社会）への移行期である。このことを踏まえ、経済もしくは財政の観点から自らテーマを設定することによって、近世近代移行期の諸問題をどれだけ理解しているのかを問うものである。さらに、出題の意図を反映した叙述になっているか、歴史用語を理解しているか、歴史的な原因・経過・結果などの因果関係を正しく理解しているか、なども評価のポイントとなる。

【問】1930 年代以降、日本外交が「普遍主義」を放棄して「地域主義」に移行していく過程について、具体例を挙げながら（たとえば、特定の外交官や外務官僚、陸軍の主導した大陸政策や、彼らの思想的変化など）、論じなさい。

1920 年代に成立した「ワシントン体制」の根拠となった「中国に関する 9 カ国条約」「国際連盟規約」および「不戦条約」は、新たな外交的価値である「ウィルソニズム」の体现であった。それは、第一次世界大戦の反省から生まれた「新外交」論であり、平和的秩序の追究を念頭に置いたものだった。1920 年代に展開された日本の「国際協調外交」は、そうした新たな価値を「普遍主義」として捉え、それを実行しようと試みた。1920 年代には曲がりなりにも機能していた「国際協調」だったが、1931 年の満洲事変を契機に、日本外交は大きく転換していくことになる。日本外交は「普遍主義」を放棄して、アジア・モンロー主義を掲げる「地域主義」へと移行していくことになる。具体的には、幣原喜重郎、有田八郎、重光葵などを事例に、彼らの外交観が急速に「内向き」に転回していく過程や、陸軍が主導する大陸進出策などについて論じられているかどうか、ポイントである。

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

【問】1956年10月19日に調印された日ソ共同宣言について以下の語彙を全て使って説明せよ。なお、使用した語彙の下にはアンダーラインを引くこと。

- (1) 単独講和 (2) 鳩山一郎 (3) シベリア抑留 (4) 北方領土 (5) 国際連合加盟

【評価のポイント】

敗戦後の日本は、講和条約締結によって独立を凶らなければならなかったが、米ソ冷戦の影響を受けて、アメリカを中心とした西側陣営の一員との単独講和によって独立した。しかし、ソ連との間には、シベリア抑留による未帰還者問題とソ連に占領されている北方領土の帰属問題が残されたままであった。吉田茂内閣の後を受けた鳩山一郎内閣は、自主外交を唱えてソ連との国交回復を目指し、1956年に日ソ国交回復を実現した。これによってシベリア抑留者の帰還問題は解決され、日本の国際連合加盟も実現したことで、日本の国際社会への復帰が果たされた。しかし、北方領土問題に関しては、平和条約締結後に色丹島と歯舞諸島の返還が定められたものの、その後の日ソ交渉は停滞したまま、今日にいたっている。

以上の流れを正しく叙述できることがポイントであり、当時の国際環境に対する理解が問われている。

【問】戦後の高度経済成長がもたらした国民生活の変化について以下の語彙を全て使って説明せよ。なお、使用した語彙

の下にはアンダーラインを引くこと。

- (1) 三種の神器（冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビ） (2) 集団就職 (3) ニュータウン
(4) 核家族 (5) 大衆車

【評価のポイント】

敗戦後の混乱を経て高度経済成長によって日本は経済大国となった。高度経済成長は重工業を中心とした第二次産業の発展であり、集団就職に代表される地方から都市部への労働人口流入が盛んになった。その結果、都市圏の拡大が起こり、郊外にはニュータウンが出現した。こうした都市の拡大のなかで日本の家族構成も親子二世帯の核家族へと大きく変わっていった。また、三種の神器（冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビ）に代表される電化製品が家庭に普及し、女性の家事労働が大きく低減された。さらに、高度経済成長の後期には大衆車といわれる自家用車が普及し、家族旅行などを始め消費行動も旺盛となり、第二次産業に変わって第三次産業が発展していった。

以上の都市化と経済構造の変化を押さえて叙述することが重要である。

下の北条家朱印状について、(一) 翻刻文を記したうえで、(二) 文書の形態・形式等について述べ、(三) 内容および関連する事項などについて知るところを述べなさい。

(一) 於高嶋可有忠信

之由、神妙レ被思召候、

仍高嶋之城并知行

方被任置候、弥竭粉

骨、可被抽忠信旨、依

仰状、如件、

天正十年壬午

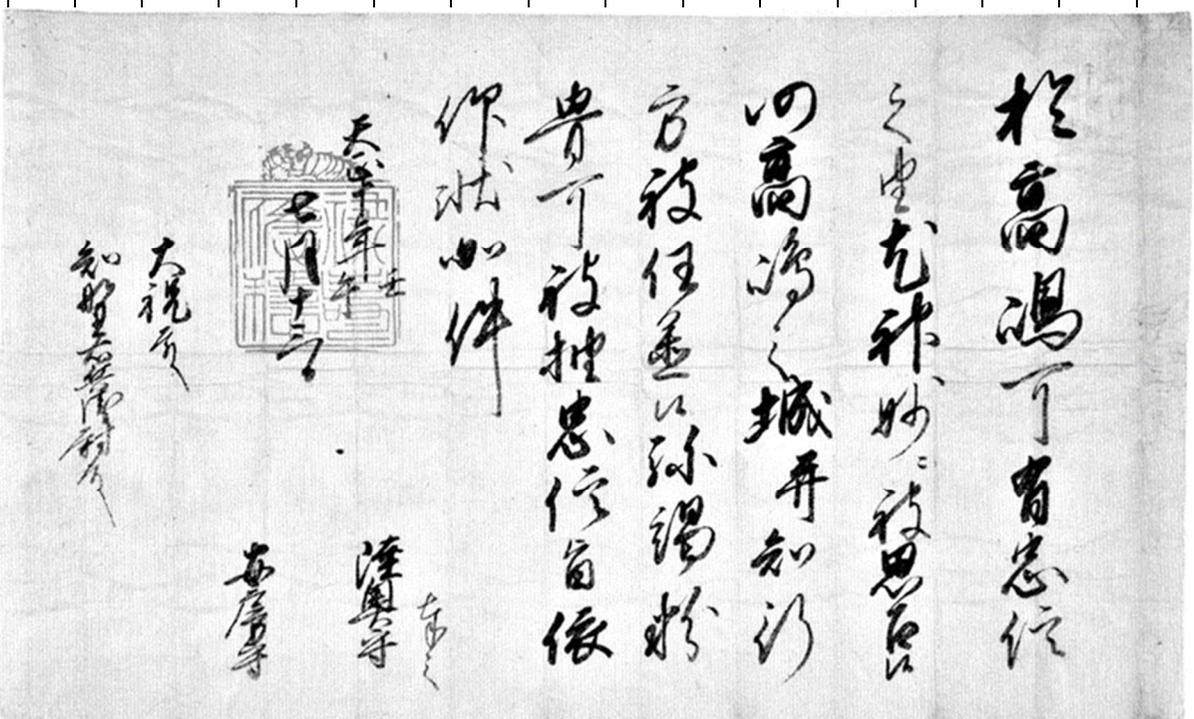
七月十三日

大祝殿

知野右兵衛尉殿

(二) この文書は豎紙である。文書奥から一二折りの折れ線跡が見える。年月日の記された部分に捺されているのは、小田原北条氏の家印の虎朱印である。朱印の下部に記されている「陸奥守」と「安房守」は奉者であり、この文書の発給に関わった人物である。「陸奥守」の右下に記されている「奉之」は「これをたてまつる」と読みむ。

(三) 天正十年三月に甲斐の武田勝頼が織田信長に破れ、さらに六月に本能寺の変が起こったことにより、旧武田領の甲斐・信濃・西上野の領有をめぐって、小田原北条氏・越後上杉氏・織田大名徳川家康が対戦する「天正壬午の乱」が勃発した。右の文書は、この「天正壬午の乱」において、信濃の諏訪神社神官大祝氏および茅野氏が北条氏に従属することを表明したため、北条氏が両氏に対して、高嶋城と城付領を知行することを認めた内容である。奉者の陸奥守は北条氏照、安房守は北条氏邦であり、両人は前当主(ご隠居様)である氏政の弟で、北条氏一門として信濃侵攻の先方を務めるとともに、当主氏直の意向をふまえて、大祝・茅野両氏ら信濃・甲斐・西上野の国衆が北条氏に従属する際の窓口である取次役を務めた。



次の史料は、「江戸幕府日記」に記載された寛永十九年の記事の一部である。史料を読み下し文になおし、この史料から読み取れる内容を解説せよ。

九月七日 雨甚終日降

一 当月十七日於日光山 御祭礼松平為右衛門地
二 相越し方 上意趣専ら馬守と相傳へし
一 日光山御社系為右衛門代吉良と野分彼等代
旨老中より渡り云々
一 日光山と川刑部大輔とを是九りく依り代也

右如く山形を相尋ねる

出典『江戸幕府日記 姫路酒井家本 第十二卷』（ゆまに書房、二〇〇八年）参照。

一、読み下し文

【解答例】

九月七日 雨甚し、終日降る

- 一つ、当月十七日、日光山において御祭礼に就き、松平右衛門大夫、彼の地に相越すべく旨、上位の趣、豊後守・対馬守これを相伝えらる。
- 一つ、日光山御社参、御名代として吉良上野介差越さる旨、老中これを申し渡され云々。
- 一つ、日光山、今川刑部大輔これを遣わされ、是九日之御名代によるなり。

右、野々山新兵衛これを相尋ねる

二、解説文

【評価のポイント】

主に以下の三点、九月十七日に日光山の祭礼が実施されること、日光山への社参に吉良家が代参すること、九月九日の重陽の節句に今川家が関与することが述べられ、その上で寛永期の東照宮（社）を中心とした日光山の祭礼などに武家が関わったことが示されている。

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【 人文科学研究科 歴史学専攻 (東洋史学コース) 修士課程 】
試験科目
【 専門試験 歴史学一般 】

〔問題〕下記の2問を解答しなさい。なお、1問につき別紙解答用紙1枚を使用し、それぞれ問題番号を明記した上で解答すること。

ただし、解答用紙の裏面を使用してはならない。

問1. つぎの(1)～(5)の事項について、それぞれ説明しなさい。

- (1) 文献通考 (2) 印綬 (3) 天可汗 (4) 澶淵の盟 (5) ペリオ(Paul Pelliot)

問1 (1) ふんけんつこう。南宋末元初の馬端臨著、1319年刊、348巻。中国古代から南宋までの諸制度について、その変遷を記した書。九通のひとつ。唐の杜佑『通典』(つてん)に倣いつつ増補し、田賦・錢幣・戸口・職役など23部門から成る。中国制度史研究の重要文献で、とくに宋代史研究の一級史料である。

問1 (2) 古代中国で用いられた官職印とそれを身につけるための帯状の組み紐(綬)。綬に官職印をつないで腰につけたので印綬という。綬の長さや幅は地位によって一定でなく、また制度に若干の変化はあったが唐代まで続いた。任官することを「印綬を佩ぶ」と言い、逆に「印綬を解く」とは退官を意味する。

問1 (3) 東突厥が瓦解すると、その服属下にあった遊牧諸部族の君長らが唐の太宗李世民に奉じた称号。「天」は遊牧民にとって唯一神であり、トルコ語・モンゴル語ではtengriという。「可汗」は北魏や柔然の遊牧君主が名乗った称号qayanを音写したもの。拓跋王朝の系譜を引く唐の皇帝にふさわしい称号と言える。

問1 (4) 1004年にキタイと宋が澶州で締結した平和条約。澶淵は澶州の雅名。主な内容は、①宋がキタイに毎年絹と銀を贈る、②宋の真宗を兄、キタイの聖宗を弟とする、③国境の現状維持すなわち燕雲十六州はキタイ領のまま。なお、②の擬制的な親族関係については、お互いの皇帝が代替わりするごとに変化した。

問1 (5) 情報量の多さ、着想の豊かさ、方法の厳密さ、卓越した論の展開などから、“フランスが生んだ世界最高の東洋学者”と称される。敦煌莫高窟で発見された大量の多言語文書群をランプの光のもとわずか3週間で読破したことで知られ、コレージュ＝ド＝フランスには彼のために中央アジア学講座が創設された。

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

問2. つぎの漢文は、『元史』巻202 釋老伝より抜粋したものである。(1) 書き下し文に改め、(2) 現代日本語に訳しなさい。

帝師八思巴者、土番薩斯迦人、族款氏也。相傳自其祖朶栗赤、以其法佐國主霸西海者十餘世。八思巴生七歲、誦經數十萬言、能約通其大義、國人號之聖童、故名曰八思巴。少長、學富五明、故又稱曰班彌怛。歲癸丑、年十有五、謁世祖于潛邸、與語大悅、日見親禮。

中統元年、世祖即位、尊爲國師、授以玉印。命製蒙古新字、字成上之。其字僅千餘、其母凡四十有一。其相關紐而成字者、則有韻關之法；其以二合三合四合而成字者、則有語韻之法；而大要則以諧聲爲宗也。至元六年、詔頒行於天下。詔曰：「朕惟字以書言、言以紀事、此古今之通制。我國家肇基朔方、俗尚簡古、未遑制作、凡施用文字、因用漢楷及畏吾字、以達本朝之言。考諸遼、金、以及遐方諸國、例各有字、今文治寢興、而字書有闕、於一代制度、實爲未備。故特命國師八思巴創爲蒙古新字、譯寫一切文字、期於順言達事而已。自今以往、凡有璽書頒降者、並用蒙古新字、仍各以其國字副之。」遂升號八思巴曰大寶法王、更賜玉印。

問2 (1) 帝師八思巴は、土番薩斯迦の人、族は款氏なり。相い傳う、其の祖朶栗赤、其の法を以て國主を佐けてより西海に覇たること十餘世なりと。八思巴生れて七歲、經を誦むこと數十萬言、能く其の大義を約通し、國人は之を聖童と號し、故に名づけて八思巴と曰う。少(やや)長じて、學は五明に富み、故に又稱して班彌怛と曰う。歲癸丑、年十有五にして、世祖に潛邸に謁し、與に語りて大いに悦び、日々親禮せらる。中統元年、世祖即位し、尊んで國師と爲し、授くるに玉印を以てす。命じて蒙古新字を製らしめ、字成りてこれを上る。其の字僅かに千餘、其の母は凡そ四十有一なり。其の相い關紐して字を成すは、則ち韻關の法有り；其の二合三合四合を以て字を成すは、則ち語韻の法有り；而して大要は則ち諧聲を以て宗と爲すなり。至元六年、詔して天下に頒行せしむ。詔して曰く：「朕惟うに字は以て言を書し、言は以て事を紀すは、此れ古今の通制なり。我が國家朔方に肇基し、俗簡古を尚び、未だ制作に違あらずして、凡そ文字を施用するは、因りて漢楷及び畏吾字を用い、以て本朝の言を達す。諸を遼、金以及に遐方の諸國に考すれば、例として各々字有り、今文治寢く興り、而して字書闕くる有るは、一代の制度に於いて、實に未だ備らずと爲す。故に特に國師八思巴に命じて創めて蒙古新字を爲らしめ、一切の文字を譯寫し、順言達事を期する而已。自今以往、凡そ璽書の頒降するもの有れば、並びに蒙古新字を用い、仍お各々其の國字を以て之に副えよ。」と。遂に號を八思巴に升して大寶法王と曰い、更に玉印を賜う。

問2 (2) 帝師パクパはチベットのサキヤの人で、姓はコン氏である。伝えるところによれば、先祖のドルジェが仏法をもって國王を補佐し、西海に覇者たらしめてより10余世の後裔だといふ。パクパは7歳のときすでに經文数10萬言を暗誦し、その大義を概括することができ、国の人々は彼を聖童と号し、それゆえに名付けてパクパといふのである。すこし大きくなると五明の學問に優れたので、またパンディタと言われるようになった。癸丑の歲にパクパは15歳で即位前のクビライに謁見した。クビライは語り合つて大いに喜び、毎日のように親禮された。

中統元年にクビライが即位すると、パクパを尊崇して國師とし、玉印を授けた。クビライはパクパに蒙古新字の制作を命じた。新字が完成し、パクパはそれを上進した。その新字はわずかに千余字で、その母字は41字であつた。それが相互に組み合わされて別の字を形成するには、韻関の法があつた。2つ、3つ、4つが合わさつて字を作るのには、語韻の法があつた。そしてその大要は、六書の楷聲を宗としたのである。至元6年、詔を下して蒙古新字を天下に公布した。その詔にはつぎのようにある。「朕が思うに、字は言を書し、言は事を紀す。これは古今の通制である。我が國家が朔方に基礎を確立してから、その風俗は簡潔古雅をとつとび、いまだに文字の制作する時間がない。文字を使用する際はいつでも漢字およびウイグル文字を用い、朝廷の言葉を通達してきた。これを遼や金および遠方の諸

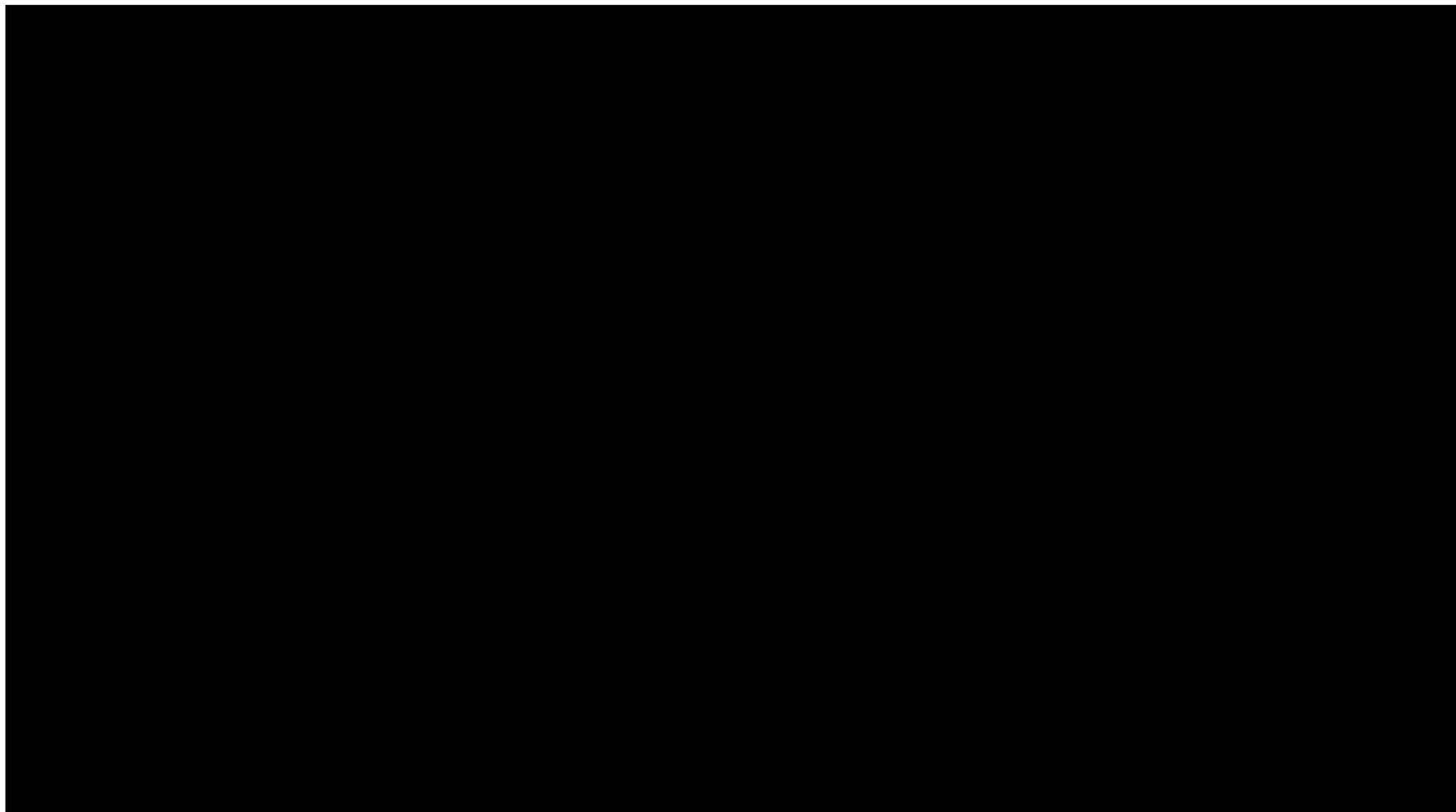
2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

国について考えてみると、いずれも文字を持っている。いま我が国の文治がようやく興っているのに、字書を欠くのは、一代の制においてじつに不備な状態である。そこで特に国師パクパに命じてはじめて蒙古新字を制作させ、一切の文字を訳写させることにしたのである。言葉に従い実行することを期してのことである。今より以降、璽書を発布する場合はみな蒙古新字を用い、かさねて各々その国の文字を副えよ」と。かくてパクパの称号を格上げして大宝法王といい、さらに玉印を賜った。

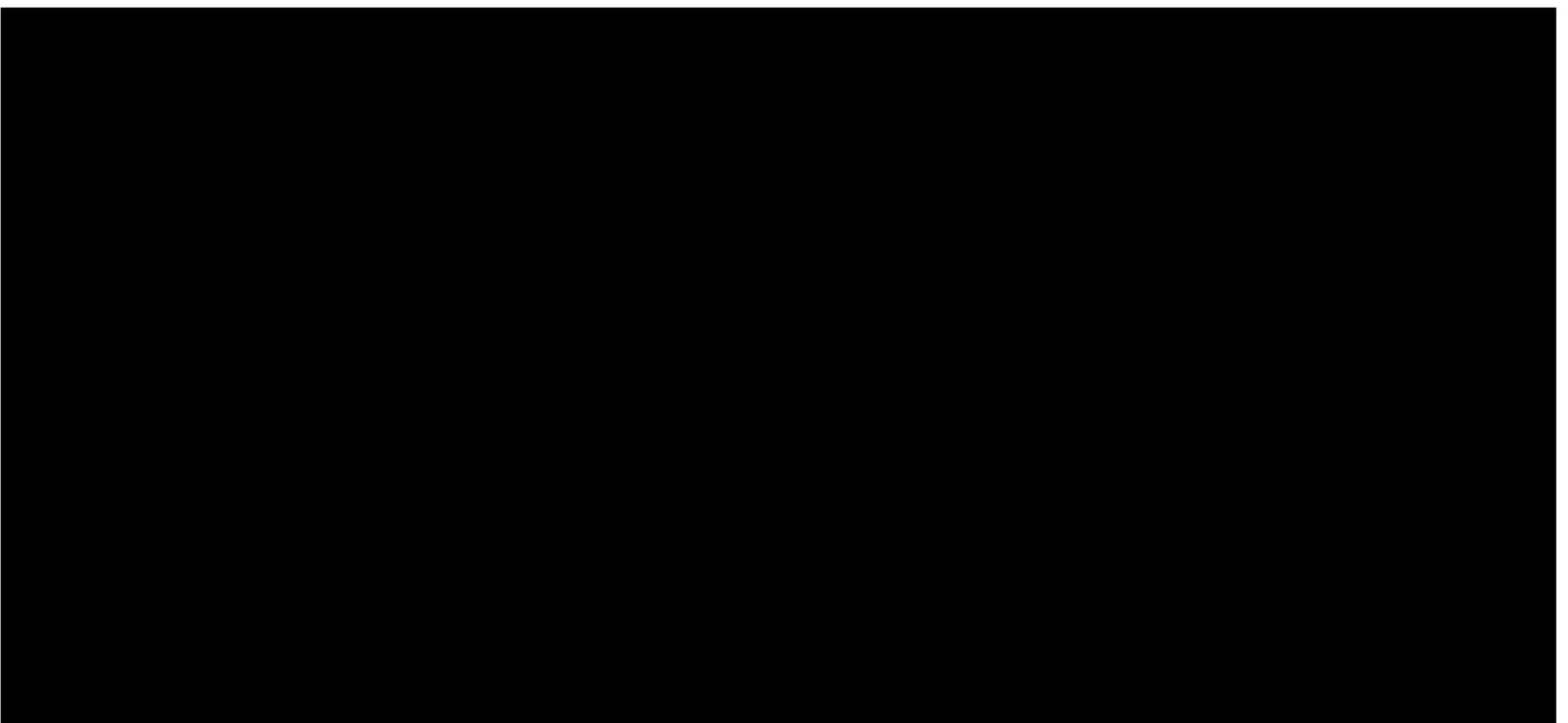
2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

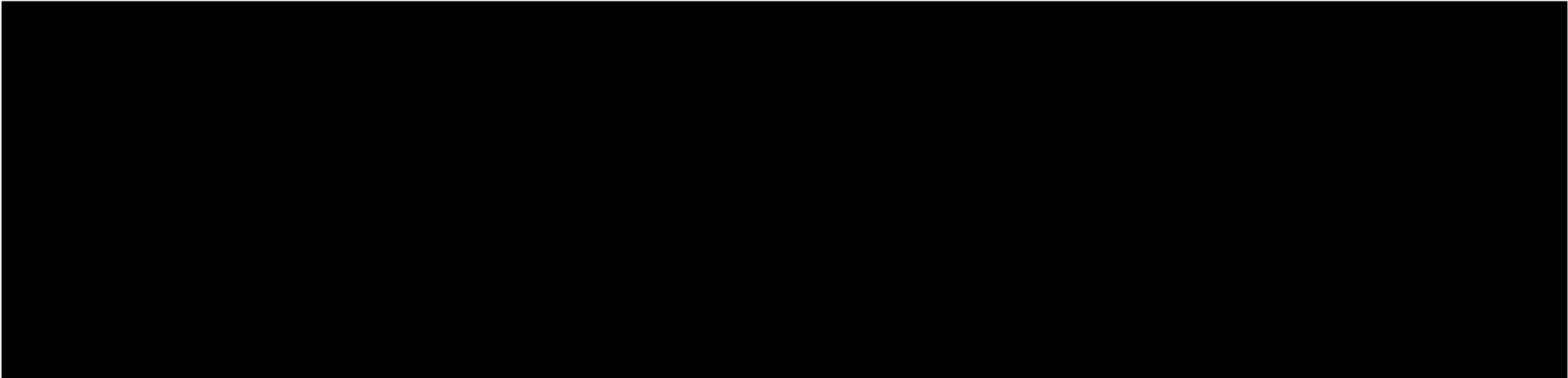
研究科・専攻 【 人文科学研究科 歴史学専攻 (東洋史学コース) 修士課程 】
試験科目 【 外国語試験 英語 】

〔問題〕 次の英文を和訳し、解答を別紙解答用紙に記しなさい。



【Wolfram EVERHARD : *A HISTORY OF CHINA* pp.167-168】





2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻

【 人文科学研究科 歴史学専攻 (西洋史学コース) 修士課程 】

試験科目

【 専門試験 歴史学一般 】

【問題1】 下記の1から3の設問から1つを選び、解答してください。

1. 古代から中世にかけての任意の文明を取りあげ、繁栄の要因について具体的な根拠を示しつつ説明してください。
2. 任意の時代と地域を取り上げ、国家と宗教との関係について論じてください。
3. 優生学が20世紀の欧米社会にどのような影響を及ぼしたか、具体的な例を挙げながら論述してください。

【評価のポイント】

以下について評価する。

1. 取り上げた題材が適切か。
2. 問われている内容についての史実を適切に提示しているか。
3. 単なる史実の羅列にとどまらず、問いに対する解答を論理的に提示しているか。

【問題2】 下記の8つの用語から5つを選び、それぞれを簡単に説明してください。

カデシュの戦い

プトレマイオス朝

コンスタンティノーブル

贖宥

重商主義

啓蒙絶対主義

ビスマルク

「ユダヤ人問題の最終解決」

【評価のポイント】

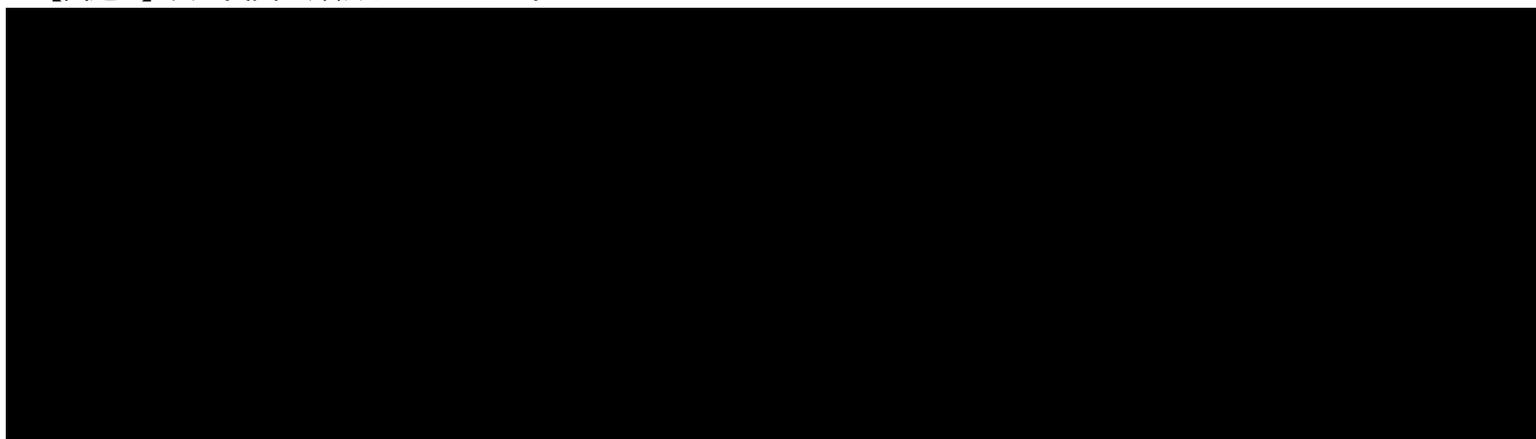
各歴史的事項に関する概要や特徴について、その背景や歴史的経緯等を踏まえながら書いているとともに、その歴史的意義について触れていること。

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【 人文科学研究科 歴史学専攻 (西洋史学コース) 修士課程 】
試験科目
【 外国語試験 英語 】

次の問題1 から3 のうち2 問を選択し、解答して下さい。なお、解答についてはそれぞれ解答用紙(4 枚目と5 枚目)に1 問ずつ記入して下さい。

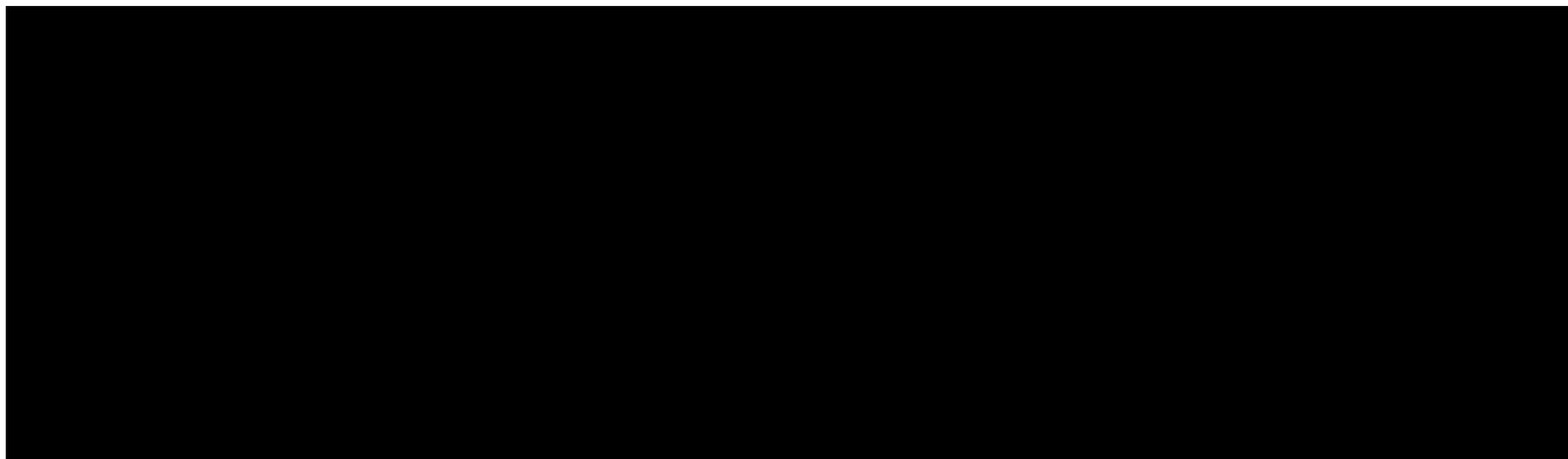
【問題1】 次の英文を邦訳して下さい。



(出典：J.C. Moore, Pope Innocent III (1160/61-1216): To Root Up and to Plant, (Leiden: Brill, 2003), pp. 39, 43)

【解答例】

【問題1】 訳例



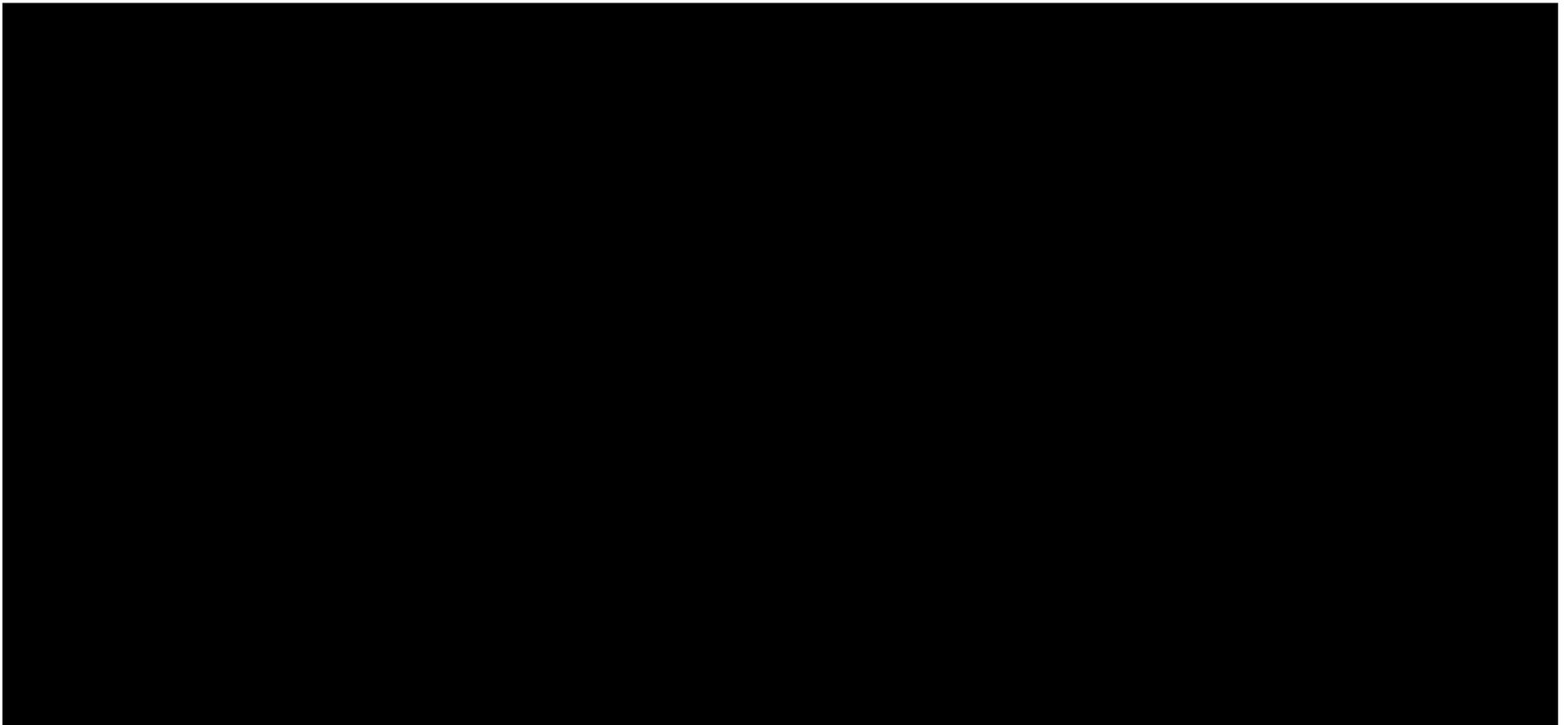
2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

【問題2】 次の英文を邦訳してください。



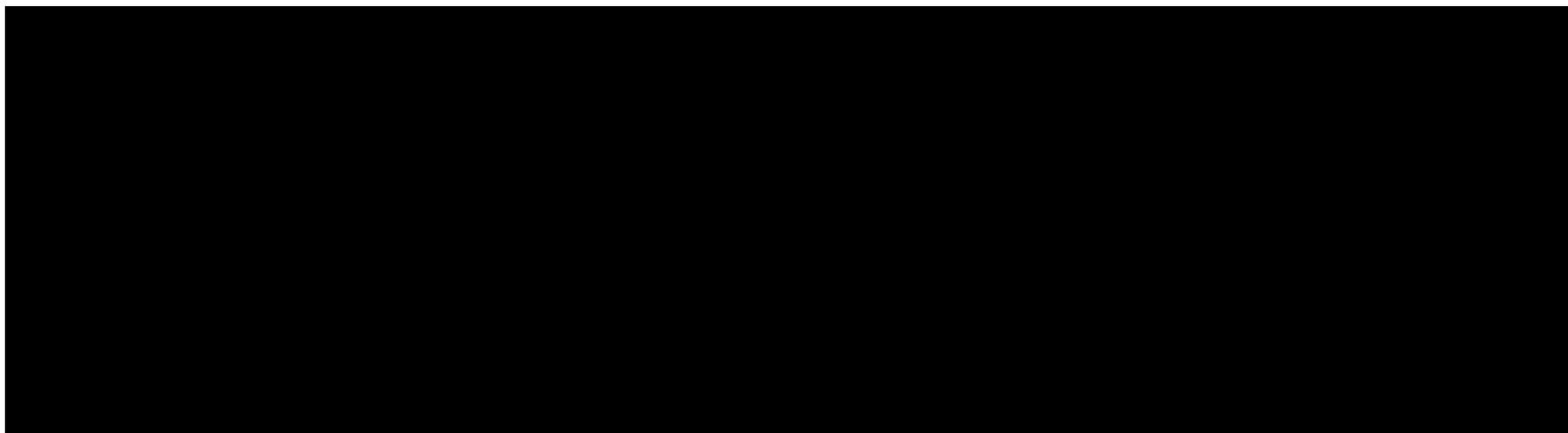
(出典：Richard L. Cleary, *The Place Royale and Urban Design in the Ancien Régime*, Cambridge U.P., 1999, p.145.)

【解答例】



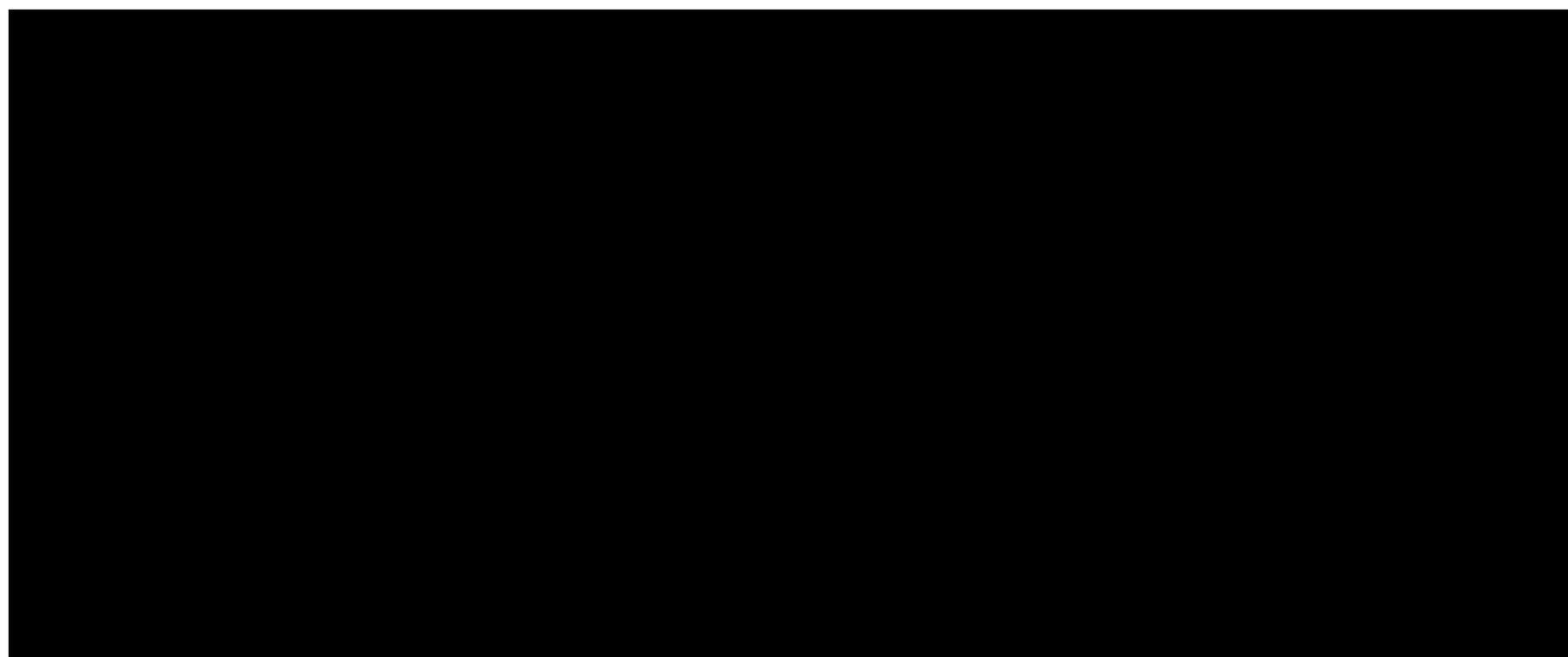
2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

【問題3】 次の英文を邦訳してください



(出典 : Benjamin Carter Hett, *Burning the Reichstag: An Investigation into the Third Reich's Enduring Mystery*,
Oxford/New York: Oxford U.P., 2014, p. 19.)

【解答例】



2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【人文科学研究科 歴史学専攻 (考古学コース) 修士課程】
試験科目
【専門試験 歴史学一般】

【出題意図】

考古学に関する知識や資料の扱い方に関する技術を修得し、修士課程での学修に求められる考古資料を用いた研究・分析の基礎を身に付けているか、また、出題の意図を正しく読み取り論理的な文章として表現ができるか、を問う。

問1 日本列島における金属器の導入過程について、時期差や地域差に言及したうえで以下の5つの用語を用いて論ぜよ。なお、用語の初出時には下線をひくこと。

【用語】 銅鐸 水田稲作の導入 厚葬墓 鉄器 武器形青銅器

【解答例】

日本列島における金属器は弥生時代前期末にさかのぼると考えられる。1990年代までは福岡県曲り田遺跡の鉄器が弥生時代早期の土器と共伴したと考えられていたが、2000年代以降に放射線炭素同位体分析による実年代観の変更により、弥生時代前期末以降に鉄器は登場すると考えられている。このように水田稲作の導入とほぼ同時に金属器が登場するという理解は成り立たなくなった。

初期の金属器としては弥生時代前期に属する福岡県今川遺跡例などがあげられるが、その量的増加は弥生時代中期初頭以降に登場する厚葬墓に副葬される銅剣や銅矛、銅戈といった武器形青銅器の出土によって確認できる。代表的な事例としては、福岡県の吉武高木遺跡M3号木棺墓があげられる。ここには朝鮮半島製の多鈕細文鏡も副葬されていた。

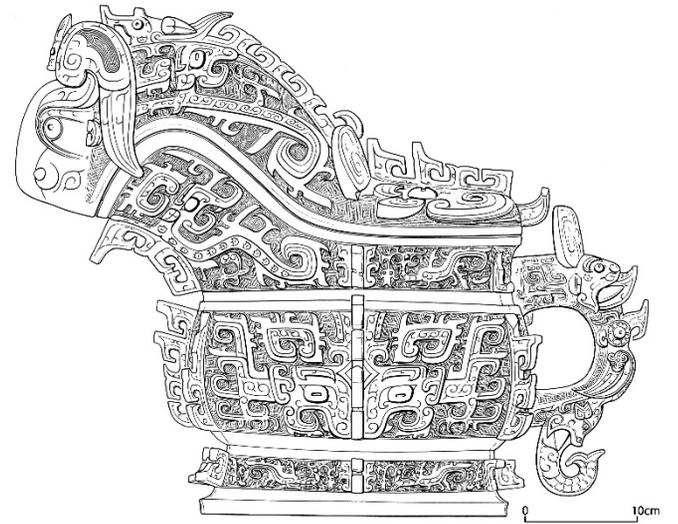
銅鐸も弥生時代中期初頭には登場していたと考えられる。その生産は各地で出土した鋳型から確認できる。初期の銅鐸鋳型は、熊本県八ノ坪遺跡や愛知県朝日遺跡から出土しており、武器形青銅器と比べてその分布は当初より広い。また、武器形青銅器と異なり、銅鐸は副葬品として出土することはほとんどなく、集落の外れや山中に埋納された状況でみつかることが多い。その代表例としては島根県加茂岩倉遺跡や兵庫県桜ヶ丘遺跡などがあげられる。これらの地域では武器形青銅器も出土するが、副葬状況で検出されることはなく、銅鐸同様に埋納状況で検出されることがほとんどである。

つまり、朝鮮半島に近い玄界灘沿岸地域では武器形青銅器が厚葬墓の副葬品として扱われたのに対し、本州島西部では武器形青銅器も銅鐸と同様に埋納品として消費されていることが分かる。

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

問題3 次のI~IIIから一つを選び、解答しなさい。

- I 土坑墓と墳丘墓はいずれも世界で広く確認される墓の形態である。具体的な遺跡や遺構をあげながら両者の特徴について説明し、想定される当時の葬礼の違いや、被葬者の死後、その墓が社会のなかで果たした役割の違いについて、自由に論じなさい。
- II 右図に示した資料について、名称・用途・年代・出土地域などの考古学的な情報を述べなさい。
- III 考古学文化を特定の「民族」集団と結びつけることは困難である。具体的な資料や考古学文化、既往の議論を紹介しながら、考古資料を集団と対応させることの危険性や問題点について論じなさい。



出典：北京大学考古文博学院・北京大学古代文明研究中心 2002『吉金鑄国史：周原出土西周青銅器精粹』文物出版社

【解答例】

II 上に示された図は兕觥と呼ばれる青銅器で、主に中国の殷代（紀元前約16世紀～前11世紀）・西周時代（紀元前約11世紀～約8世紀）において製作された。器は蓋と身からなり、身には把手が一つと、圈足と呼ばれる高台がつくことが多い。液体を注ぐための構造をしており、『詩経』などの記載から、温めた酒に香草で風味をつけ個々人の器に酒を注ぐことが主な用途だったと考えられている。

上の図の例は、身の下に圈足をもち、胴部中央には饗饗紋が、頸部には龍紋が、圈足部には夔紋が施される。蓋にも龍紋や饗饗紋が施され、蓋全体でも龍のような細身の動物を象っており、西周時代に典型的な紋様構成だと言える。兕觥は古くは殷墟遺跡（河南省安陽市）から出土しているが、古い時代のものは圈足ではなく四本の突起状の足をつける例も少なくないが、西周時代にはほとんどが圈足を持つタイプのものに代わる。この点からも、当該の器の年代は西周時代だと考えられる。西周時代は全般的に酒器を青銅器で作る数量が大きく減少しており、西周中期以降はほとんど見られなくなることを考慮すれば、当該器の年代も西周時代前期とみるべきなのかもしれない。

出土地点として、殷代の例は殷墟遺跡、周代の例は周原遺跡（陝西省扶風県・岐山県）からのものが多く知られている一方で、殷墟や周原といった王朝の中心地以外からの出土はまれである。殷周時代の青銅器の中でも、高い階層の人物鹿所有することのできなかつた、特殊な器である可能性が高い。

西周時代後期以降、一般的な青銅器組成として、酒器に代わって水器が出現し増加する。西周中期頃にいったん製作が終了した兕觥であるが、西周後期以降に増加した匜と呼ばれる注水器の形の中に、兕觥の身を模したようなものが出現することが知られている。ただし、そのような例においても蓋は伴わないことが多く、注酒器としての兕觥とは用途が異なっていたことを示唆している。

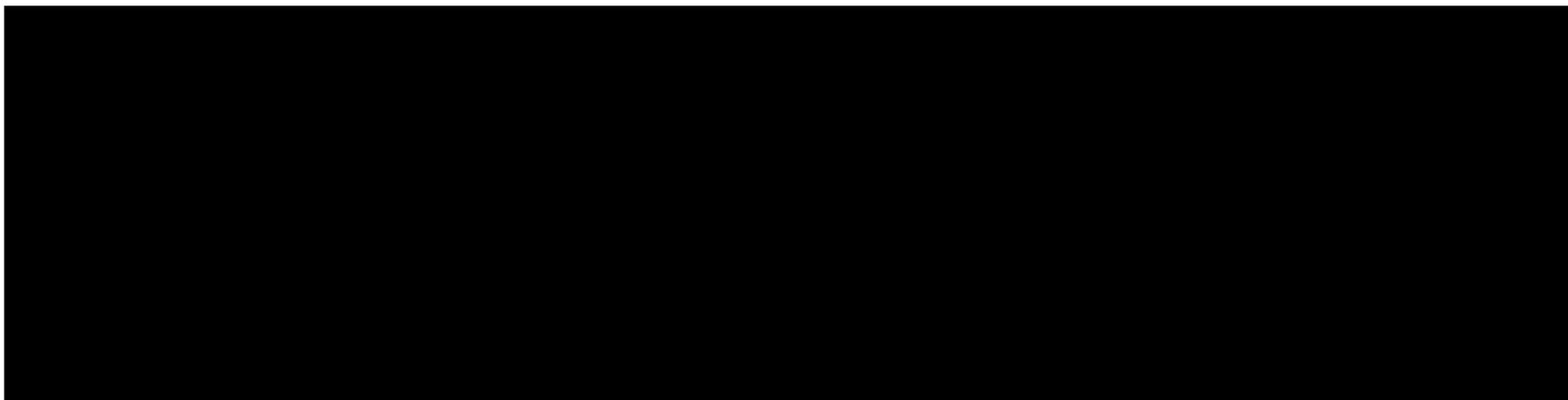
2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【人文科学研究科 歴史学専攻 (考古学コース) 修士課程】
試験科目 【外国語試験 英語】

【出題意図】

考古学に関する基礎的な英文を、適切な日本語に翻訳できるかどうか、また、英文の論理展開を正しく理解しているかどうかを問う。

以下の文章を適切な日本語に訳すこと。



lodge : 突き刺さる fragile : もろい、壊れやすい generate : 引き起こす

出典 : Imamura, Keiji. 1996 *Prehistoric Japan: New Perspectives On Insular East Asia*, Routledge, pp.326-327

(解答例)

